JETRO

2024年版

ルーマニアにおける日本酒に対する需要と関心調査

日本貿易振興機構（ジェトロ）
ブカレスト事務所
2025年03月

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向　4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況　10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング　16

IV. 文化イベントでのヒアリング　21

V.　商談イベントでのヒアリング　26

VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制　31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

はじめに

ルーマニアでは所得向上を背景に、日本文化やアニメへの関心が高まっている。当地で開催されるコンテンツ関連イベントの「Comic Con（コミコン）」には、3 日間の会期に延べ 5 万人が訪問するなど活況を呈している。このようなトレンドに伴い、日本食に対する関心も高まりをみせ、すでに日常的なものとして普及しているすしに加え、ラーメン、日本酒、調味料といった食材にも広がりを見せている。

これまで日本食材の取り扱いは日本食レストランのみと限定的であったが、昨今では非日系レストランでもドリンクのメニューに日本茶のほか日本酒や日本産ウイスキーが取り入れられたり、椎茸や出汁が調理に使われるケースもある。日本産のホタテや牛肉の需要が高まることを見越して、バイヤーから情報提供を求められる機会も増えている。

本調査は、ルーマニアにおける日本酒への理解や需要・関心について把握することを目的とし、現地食品関連企業やディストリビューター、一般消費者を対象としたヒアリングを実施し、その結果をまとめたものである。ルーマニアへ日本酒をはじめとする日本食品の輸出を検討している日本企業の手掛かりとして活用いただきたい。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4
II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10
III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16
IV. 文化イベントでのヒアリング 21
V.　商談イベントでのヒアリング 26
VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

ルーマニアの食文化と嗜好

- ルーマニアはブドウ園や果樹園といった豊かな農業資源によりワインや蒸留酒の醸造が盛んであるほか、飲酒文化が深く根付いており、生産環境と文化的側面の両方がアルコール飲料の需要に貢献している。
- 以下、ルーマニアにおける代表的な酒類と食文化について紹介する。

- ワイン

ルーマニア全土でワイン作りが行われており、カベルネ・ソーヴィニヨン、メルロー、ソーヴィニヨン・ブラン、シャルドネ等の国際品種のブドウだけでなくルーマニア固有種であるフェテアスカ・ネアグラ（黒）、フェテアスカ・アルバ（白）、フェテアスカ・レガーラ（白）を利用したものも多い。

- 蒸留酒

ルーマニアの代表的な蒸留酒は「ツイカ」「パリンカ」である。
「ツイカ」は、プラムの発酵・蒸留酒であり、度数は24度から65度の間であることが多い。原料はプラムのみの利用が許可されており、強いプラムの風味を持つ。一般的にショットグラスにいれ、ストレートで飲む。価格帯は40ミリリットルで25～35レイ（約800～1,200円）
「パリンカ」は、プラムだけでなく、他のフルーツの利用も認められており、度数は40度から70度の間であることが多い。原料は果実だけである必要があり、風味もそれぞれの果実が分かる必要がある。価格帯は40ミリリットルで25～35レイ（約800～1,200円）

（出所）写真著者撮影

- 伝統料理

メインは肉料理が多く、中でも豚肉料理の種類が豊富である。味付けは日本人にとっては少し濃いめのものが多い。

- ミティテイ：

ハーブ・スパイスを混ぜ込んだひき肉団子。肉は豚肉、牛肉、羊肉が使われる。

- サルマーレ：

豚肉、玉ねぎ、コメを酢漬けのキャベツで巻いてトマトソースで煮込んだ料理。通常ママリガ（コーンミールを粥上に煮た料理）が添えられる。

- トキトゥーラ

牛肉、羊肉、鶏肉のいずれかを野菜とともに煮込んだ料理。内臓やソーセージが使われることもある。通常ママリガが添えられる。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

2 ルーマニアのアルコール飲料市場の動向

- ルーマニアのアルコール市場（収益ベース）は2024年に52億ドルに達する見込み。
- ルーマニアの1人当たり年間アルコール消費量は、欧州諸国の中で最も多い。

1．アルコール飲料市場概況

- 過去数年間で、ルーマニアは欧州のアルコール市場において重要なプレイヤーとして台頭し、特にワインとビールの消費量が多い。
- アルコール市場の収益は一貫して上昇傾向を示しており、2024年には52億ドルに達する見込み。
- ルーマニアの1人当たりの年間アルコール消費量は、欧州諸国の中で最も多く、2024年公表のデータによると、1人当たりの純アルコール消費量は年間約17リットルである（2番手ジョージアが14.3リットル、3番手チェコが13.3リットル。日本は6.7リットル）。特にルーマニアの男性の消費量は多く、平均して毎年27.3リットルの純アルコールを消費している。
- ルーマニア国立統計局によると、 2022年は純アルコール消費量の45.3%がビール、28.9%がワイン、27.8%が蒸留酒だった。中でも蒸留酒の消費量が増加しており、ワインは横ばい、ビールは減少している。
- ルーマニアのアルコール飲料消費のうち外食（レストランおよびバー）は、2024年に7億3,860万ドルに達する見込み。

（出所）
Statistica(2024)：https://www.statista.com/topics/8564/alcohol-market-in-romania/#statisticChapter
Statistica(2024)：https://www.statista.com/outlook/cmo/alcoholic-drinks/romania
WHO(2024)：https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/377960/9789240096745-eng.pdf?sequence=1
ルーマニア統計局(2023)：https://insse.ro/cms/sites/default/files/field/publicatii/consumul_de_bauturi_in_anul_2022.pdf

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 | ルーマニアのアルコール飲料市場の動向

2. アルコール飲料輸入動向

- 国立統計局によると、純アルコール換算で、2022年のルーマニア国内のアルコール飲料の16.7%は輸入である。
- 2023年のアルコール飲料のルーマニアの輸入額は以下の通り。

	蒸留酒、リキュール等	ワイン等	ビール	シードル、ペアワイン、蜂蜜酒、日本酒
輸入額	3億2,200万ドル	1億4,200万ドル	5,500万ドル	1,830万ドル

- FRD Centerの分析によると、2023年のルーマニアの酒類輸入の大手3社は、PPD Romania（売上9,000万ユーロ）、Pernod Ricard Romania（売上7,500万ユーロ）、BDG Import（売上7,400万ユーロ）である。また、同社によると、その他の輸入業者、ディストリビューターで重要な企業は、Finestore Distribution、Alma Tim Distribution、Cristalex 94、Lerida International、Simba Co Importなどである。

（出所）
ルーマニア統計局(2023)：https://insse.ro/cms/sites/default/files/field/publicatii/consumul_de_bauturi_in_anul_2022.pdf
FRD Center (2024)：Successful Food & Beverages Market Entry to Romania and the Region

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

4 | ルーマニアのアルコール飲料市場の動向

- ルーマニア人は知らないアルコール飲料を試すことに非常に保守的。
- アルコール飲料を選ぶ際に重要なのは、ブランドおよび価格。

3.　アルコール飲料消費動向

2019年および2021年にReveal Marketing Researchがルーマニア人約1,000人に対してアルコール飲料の消費動向について実施した調査によると以下のことが判明している。

- ルーマニア人の22%がビール、17%がワイン、8%がシードル、4%が蒸留酒を好む。
- アルコール飲料を選ぶ際に重要な要素は（複数回答）、57%がブランド名、36%が価格、19%がセール対象かどうか、8%がパッケージデザインである。47%は「すでに知っているブランド以外の飲み物をめったに飲まない」と回答し、3.5%のみが「他のブランドを試すことに興味がある」と回答した。
- ルーマニア人はアルコール飲料に関しては変化に対して保守的な傾向がある。
- アルコール飲料のイメージについては、ワインについては「社交」「誘惑」「美食」のためのエレガントな飲み物、蒸留酒については「特別な機会（パーティー、誕生日等）」の飲み物とみなされている。

（出所）
Reveal Marketing Research(2021)：https://reveal.ro/retail/studiu-reveal-bauturi-alcoolice/
Retail-FMCG.ro(2020)：https://www.retail-fmcg.ro/fmcg/piata-bauturilor-alcoolice-romania.html

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

5 | ルーマニアのアルコール飲料市場の動向

- ルーマニアのEコマース市場規模は約73億ユーロ。
- 最大のEコマースプラットフォーム企業がアルコール飲料販売を急拡大させているが、多くのアルコール飲料専門のオンラインショップも存続している。

4. アルコール飲料Eコマース動向

- MerchantProが発表したeCommerce Insights 2024によると、ルーマニアのEコマースは堅調な成長を遂げており、2024年のEコマース市場規模は前年同期比で約3%増の73億ユーロを到達する見込みである。2024年12月時点で、Eコマース分野での主な企業は、EMAG、OLX Romania、Altex、Publi24である。

- Eコマースの最大手はEMAG社（ルーマニア企業）であり、2023年の売上は約12億ユーロ。同社によると、飲料全般の売上が好調であり、特にアルコール飲料が大幅に増加している。2023年、前年比で、同社のアルコール飲料の売上は28%増加している。要因の一つは「ショップインショップ」の発展である。一部のアルコール飲料輸入業者・ディストリビューター、小売業者も、同プラットフォームに出店している。（注：Eコマースにおける「ショップインショップ」とは、より大きなオンラインマーケットプレイス内における仮想ストアを指す。ここでブランドや小規模な小売業者が自分たちの製品を販売する専用のセクションを設け、他社のオンラインプラットフォーム内に「ミニストア」を作成する。）

- 一方で、多くの品質の高いアルコール飲料、特に輸入されたアルコール飲料はEMAGではなく、アルコール専門店のオンラインショップで販売されている。

（出所）
MerchantPro(2024)：https://cdn.merchantpro.com/files/content/MerchantPro_eCommerce_Insights_2024.pdf
Modern Buyer(2024)：https://modernbuyer.ro/irina-pencea-general-manager-emag-romania-cateva-avantaje-fata-de-comertul-offline-au-stimulat-cresterea-gradului-de-adoptie-a-cumparaturilor-online/
SEMRUSH(2024) Top websites in Romania (Retail Industry)：https://www.semrush.com/trending-websites/ro/retail

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16

IV. 文化イベントでのヒアリング 21

V.　商談イベントでのヒアリング 26

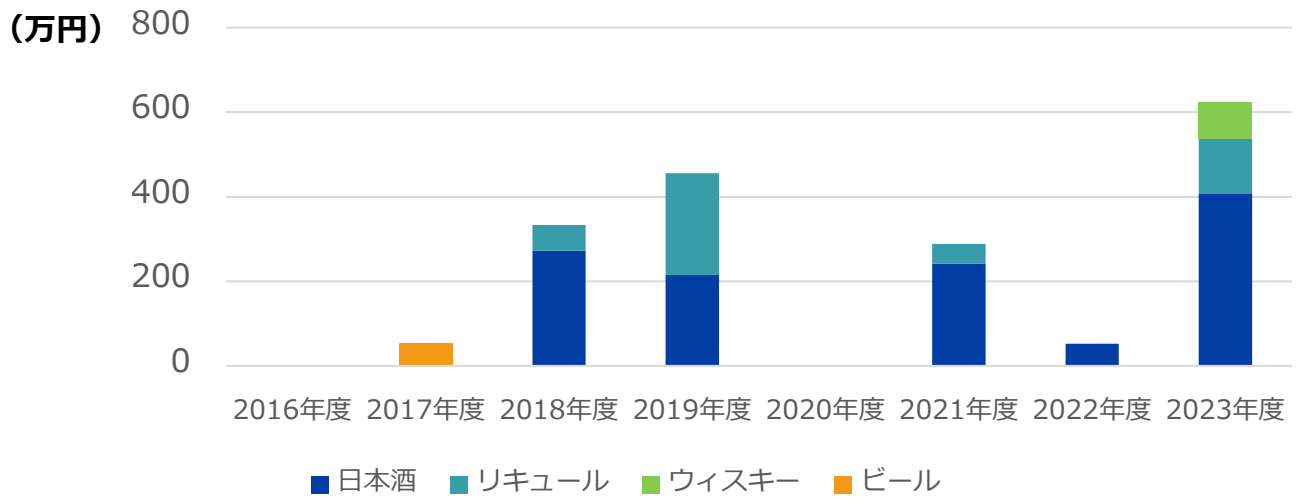
VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

1 ルーマニアにおける日本産アルコール飲料

- ルーマニア向け日本産アルコール飲料の直接輸出額は非常に限られているものの増加傾向がみられる。日本酒とリキュールが主要品目となっている。
- ルーマニアで扱われている日本酒の多くは、欧州の他の国から輸入されている。

日本産アルコール飲料のルーマニアへの直接輸出金額推移



（万円）	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
日本酒	0	0	272.8	214.7	0	241.2	52.4	406.9
リキュール	0	0	60.1	240	0	47.4	0	129.6
ウィスキー	0	0	0	0	0	0	0	86.1
ビール	53.9	0	0	0	0	0	0	0

（出所）財務省貿易統計をもとに作成
注：年度は４～３月

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

2 ルーマニアの日本酒の市場概況

- 日本酒は店舗での販売は限られており、仏スーパー大手のカルフールでチョーヤの日本酒が置かれているが在庫がない場合もある。日本酒のほとんどはオンラインショップで販売されている。

日本酒を取り扱う業者例

業者	業態	販売先	概要
Tokyo Style	輸入卸業者、オンラインショップ	ブカレスト	日本酒を日本から直接輸入している。レストランやディストリビューターへの卸、オンラインショップで日本商品を販売。下記Expert Factor向けに宝酒造の日本酒をフランスの業者から仕入れている。
Alma Tim	ディストリビューター	ブカレスト	白鶴、菊正宗、光武酒造の日本酒を取り扱う。他の日本酒の取り扱いにも関心あり。
Smart Drinks.ro	オンラインショップ	オンライン	上記Alma Timが運営するオンラインショップ。白鶴、菊正宗、光武酒造の日本酒を取り扱う。
OTOTO	専門店	ブカレスト	人と自然に配慮した商品をコンセプトに、実店舗とオンラインで販売。過去に日本酒の取り扱いあり。ギフト、抹茶、日本酒等の日本商品の取り扱いを拡大予定。
Expert Factor	ディストリビューター	ブカレスト	アジア食品および海産物のディストリビューター。2023年よりTokyo Styleから日本酒を仕入れ、取り扱う。
Expertfoods.ro	オンラインショップ	オンライン	上記Expert Factorのオンラインショップ。
Beicevrei	オンラインショップ	オンライン	明石酒類醸造およびチョーヤの日本酒を取り扱う。
DrinkZZ	オンラインショップ	オンライン	白鶴、チョーヤ、小西酒造の日本酒を取り扱う。
King.ro	オンラインショップ	オンライン	白鶴、菊正宗、チョーヤ、光武酒造、明石酒類醸造、宮下酒造の日本酒を取り扱う。

（出所）オンラインの情報をもとに作成

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 | ルーマニアの日本酒の市場概況

- 2023年時点で、ルーマニアには110軒の日本食レストランが存在する。
- 多くの日本食レストランはチョーヤ、白鶴の日本酒を取り扱っている。

日本食レストランでの日本酒取り扱い例

レストラン名	都市	概要
Yuki Japanese Home Dining	ブカレスト	日本人オーナーが2015年に開業。すし以外の日本食を提供している本格的日本食レストラン。南部美人、久保田、弥山、白鶴の日本酒を取り扱う。
Japanos	ブカレスト	ラーメン、弁当、すしを提供する日本食レストラン。チョーヤの日本酒を取り扱う。
Zen Sushi	ブカレスト	Romania Sushi Cupの優勝者も所属するすし・日本食レストラン。チョーヤ、白鶴、明石鯛、獺祭等の日本酒を取り扱う。
Edo Sushi	ブカレスト	日本とビジネスを行うルーマニア人オーナーが経営する日本食レストラン。西野金陵の日本酒を取り扱う。
KIMU Bucharest	ブカレスト	韓国・日本食レストラン。明石鯛、白鶴、美寺都の日本酒を取り扱う。
Ginger Sushi Bar and Lounge	ブカレスト	ラディソンブルホテルの中のすしレストラン。白鶴の日本酒を取り扱う。
Yoshi Sushi & Teppanyaki	ブカレスト	チョーヤおよび宝酒造スパークリング日本酒「澪」を取り扱う。
RUKA Izakaya	ブカレスト	白鶴および明石鯛の日本酒を取り扱う。
Tokyo Restaurant	クルージュ・ナポカ	日本人オーナーシェフが経営する日本食レストラン。チョーヤ、久保田、獺祭、菊水を取り扱う。

（出所）農林水産省（2023): https://www.maff.go.jp/j/shokusan/eat/attach/pdf/160328_shokub-10.pdf
表はオンラインおよび現地調査をもとに取りまとめた。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

4 | ブカレストの代表的な日本料理レストラン

- ブカレスト市内で長年にわたり運営されている主な日本料理レストラン例は以下の通り。

- Yuki Japanese Home Dining
- 日本人オーナーが2015年に設立、日本の家庭料理を提供。

- Japanos
- ルーマニアに7店舗展開、ラーメン、すし、弁当を主に提供する日本食レストラン。

- Zen Sushi
- ルーマニアに9店舗展開するすし・日本食レストラン。オーナーおよび所属シェフは国際的なすしコンテストで入賞する等の実績あり。

- Edo Sushi
- 日本とビジネスを行うルーマニア企業オーナーが所有するすし・日本食レストラン。

（出所）写真・レストラン提供

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

5 | ルーマニアにおける日本食品関連イベント

- ルーマニアでは日本食品に特化した展示会は現在開催されていない。大規模文化イベント（ポップカルチャーもしくはアジア文化全体）で日本食品が取り扱われる場合が多い。
- 日本産アルコール飲料に焦点をあてたイベントは行われていないが、アルコール飲料のテイスティングイベントで日本産アルコール飲料が扱われることはある。

日本食品を取り扱うイベント例

開催時期	イベント	開催都市	概要
4月および9月	East European Comic Con	ブカレスト（過去に追加で他都市でも開催されたことがある）	東欧最大級のポップカルチャーイベント。日本食品、日本雑貨、日本産アルコール飲料、日本茶、日本コンテンツビジネス等の出展あり。来場者は5万人以上。
6月	Romania Sushi Cup	ブカレスト	すしコンテスト。優勝したシェフは日本での世界選手権決勝に出場できる。日本食品企業複数社がスポンサーとなっている。
9月	Asia Fest	ブカレスト	アジアをテーマにした大規模イベント。日本食品、日本雑貨、日本コンテンツビジネス、日本産ビール等の出展あり。来場者は1万人程度。
10月	Smart Drinks of Bucharest	ブカレスト	日本産ジンが取り扱われている。
11月	Whisky Fest Romania	ブカレスト	日本産ウィスキーが取り扱われている。来場者は1,200人程度。
11月	Bucharest Food Expo & Carnexpo	ブカレスト	食品および飲料、ホレカ、リテール業界の最大規模のB2B食品飲料展示会。来場者は2万5千人程度。

（出所）ウェブサイトや現地調査をもとに作成

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16

IV. 文化イベントでのヒアリング 21

V.　商談イベントでのヒアリング 26

VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

1 | 非日系レストランにおけるヒアリング

- 2024年9月10～12日にブカレスト市内のレストラン4店舗（ルーマニア料理、多国籍料理、イタリア料理、スペイン料理）にて一般客81人に対してテイスティングおよび嗜好ヒアリングを実施。
- 使用した日本酒は山口県産の純米大吟醸、 新潟県産の純米吟醸（辛口）、 香川県産の山廃・吟醸の三種類。

- BUONGIORNO ITALIAN PRIMĂVERII
- イタリア料理
- 客単価：5,000～7,000円

- Energiea
- 多国籍料理
- 客単価：4,000～6,000 円

- Hanu' lui Manuc
- ルーマニア料理
- 客単価：5,000～7,000円

- La Finca by Alioli
- スペイン料理
- 客単価：6,000～8,000円

（出所）写真レストラン提供

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

2 | 非日系レストランにおけるヒアリング

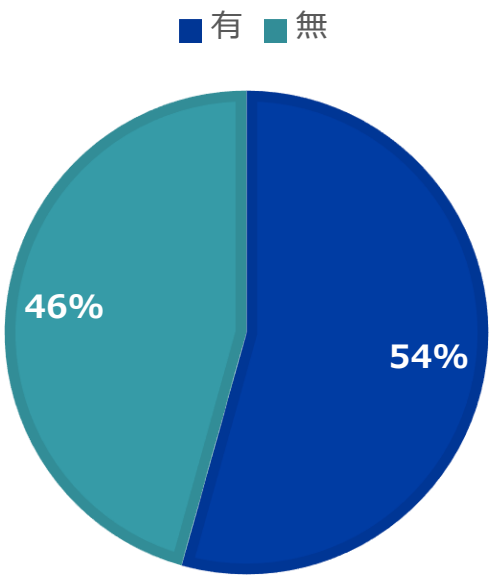
- ヒアリング対象者81人のうち男性は51人、女性は30人で、年代別では31～40代が最も多い。
- 日本酒を飲んだ経験については、「飲んだことがある」と回答した人が54%と半数をやや上回った。

ヒアリングサンプルの属性

ヒアリング対象 年代別

	男女合計（人）	男性（人）	女性（人）
18 – 24歳	12	6	6
25 – 30歳	12	2	10
31 – 40歳	27	19	11
41 – 50歳	13	11	2
51 – 60歳	5	5	0
61 – 70歳	11	8	3
合計	81	51	30

日本酒をこれまで飲んだことがあるか

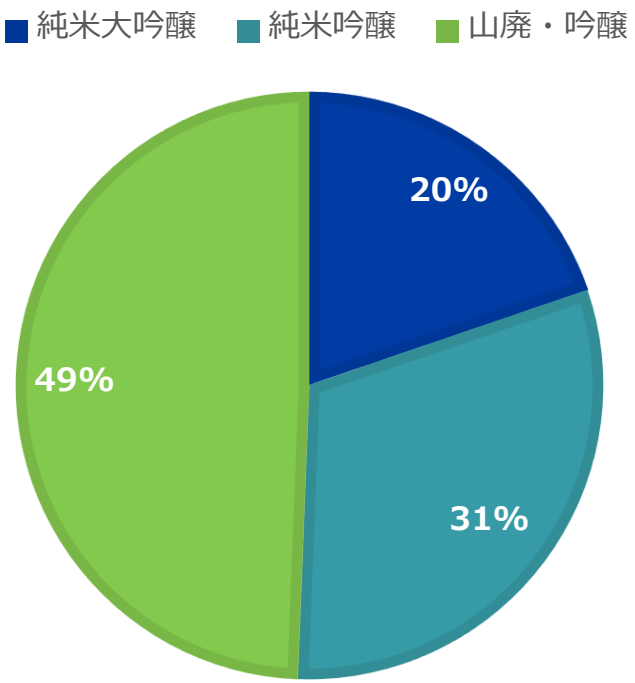


Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 | 非日系レストランにおけるヒアリング

- 山廃、次いで純米吟醸（辛口）が人気であることが判明。
- 特に男性からは、ルーマニア産の味の強い蒸留酒（パリンカ、ツイカ）に慣れているため、日本酒も濃厚で味が強めのものを好むとの意見が多くみられた。

試飲した日本酒の中での好み



味に関するコメント

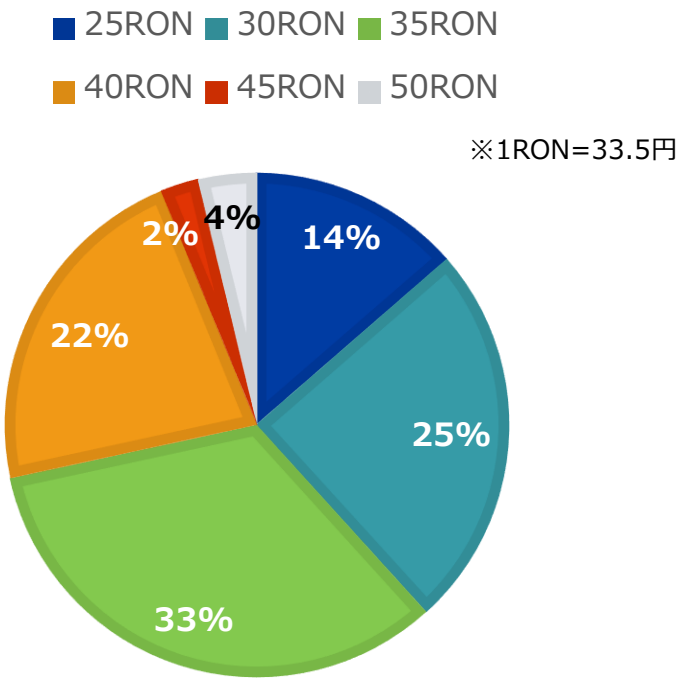
- （30代女性）日本酒を飲んだことがないため、純米大吟醸がフルーティーで一番飲みやすい。
- （30代男性）純米大吟醸は甘すぎる。
- （40代男性）山廃は飲んだことがない味だが、濃厚であり、ルーマニアの蒸留酒を思い出させる味で一番飲みやすい。
- （50代男性）純米吟醸（辛口）が日本で飲んだ日本酒に一番近い味がするため美味しいと感じる。
- （60代女性）山廃はアルコールが強く感じ、純米大吟醸は味がクリアでおいしく感じる。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

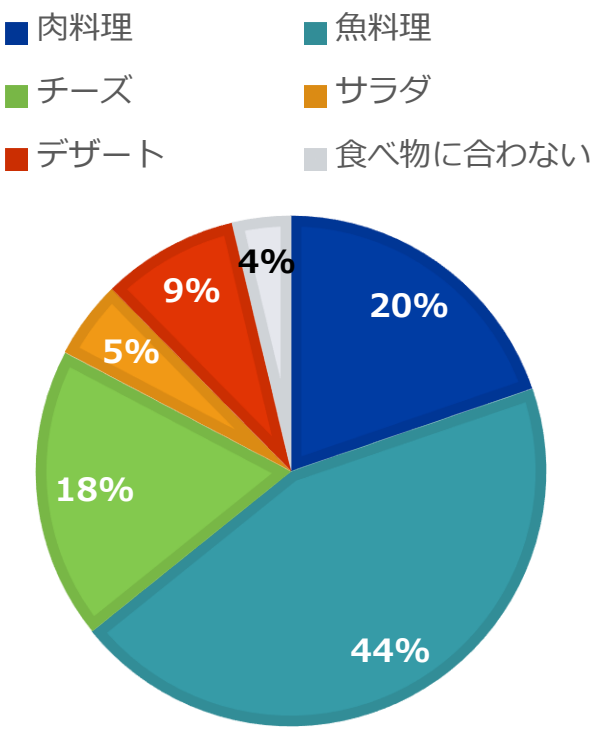
4 | 非日系レストランにおけるヒアリング

- レストランでのワイングラス一杯での妥当な値段については、全体の8割が30~40RON（およそ1,000~1,350円）が妥当であると回答。一般的なレストランでのワインの値段が15～30RON (およそ500~1,000円）であることから、ワインより多少高値で出すことができることが判明した。
- ペアリングについては、ほぼ半数の回答者が魚料理、2割が肉料理およびチーズと回答。

ワイングラス一杯での妥当な値段



ペアリングの料理



Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16

IV. 文化イベントでのヒアリング 21

V.　商談イベントでのヒアリング 26

VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

1 | 文化イベントでのヒアリング

- 2024年9月13～15日にかけて、東欧最大級のポップカルチャーイベントEast European Comic Con (来場者5万人超）にて日本酒の試飲ブースを設け、一般来場者を対象としたヒアリングおよび日本酒のワークショップを実施。

East European Comic Con

- East European Comic Con は、アニメ、ゲーム、映画、漫画などをテーマとした東欧最大級のポップカルチャーイベントである。毎年4月と9月の2回開催で、3日間の会期中に延べ5万人超の来場者が集まる。
- 日本のコンテンツビジネス、日本食、日本雑貨も多く出展している。同イベントは、日本ファンコミュニティーが多く存在し、日本商品との親和性が高い。

日本酒試飲ブース

- 山口県、新潟県、香川県の酒蔵の純米、純米吟醸、純米大吟醸日本酒、日本酒スパークリングを用いて試飲を実施。2,000人超が試飲に参加。

（出所）著者撮影

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

2 | 文化イベントでのヒアリング

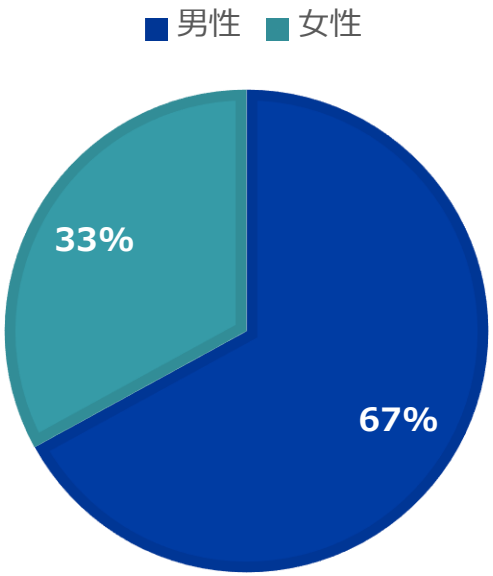
- 日本酒の試飲ブースにて、合計572人分のアンケートを回収。
- ポップカルチャーイベントという性質上、18～30歳の回答者が85%を占める。

ヒアリングサンプルの属性

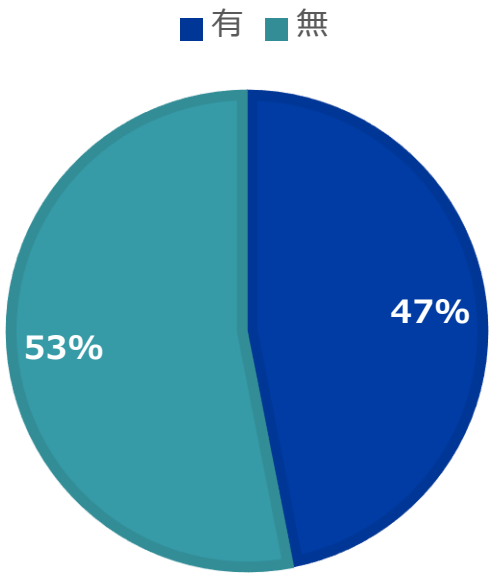
ヒアリング対象 年代別

	男女合計（人）
18 – 24歳	299
25 – 30歳	186
31 – 40歳	70
41 – 50歳	15
51 – 60歳	2
合計	572

男女比



日本酒をこれまで飲んだことがあるか

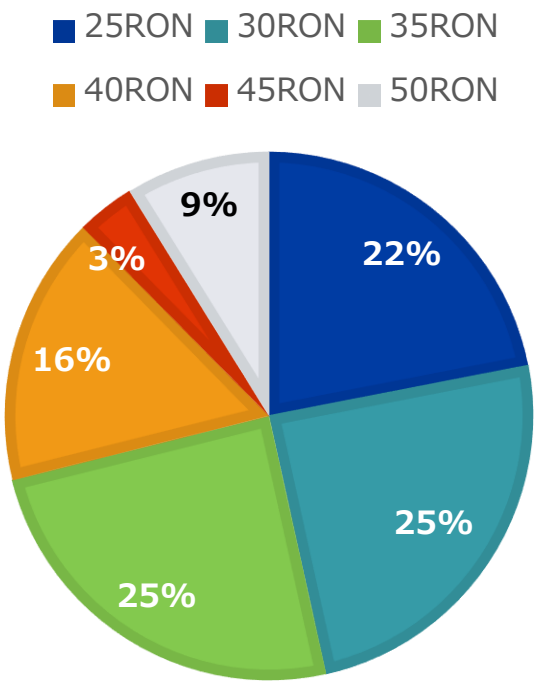


Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 | 文化イベントでのヒアリング

- 回答者の85%が18～30歳であることから、レストランでのワイングラス一杯での妥当な値段については、非日系レストランでの調査と比較すると低くなり、全体の66%が30~40RON（およそ1,000~1,350円）が妥当であると回答。
- スパークリング日本酒が非常に好評。スパークリングを飲んだことがある参加者はほとんどおらず、一般的なスパークリングワインよりも飲みやすく美味しいという意見が多くみられた。

ワイングラス一杯での妥当な値段



スパークリング日本酒に関するコメント

- ルーマニアではスプリッツァ（白ワインと炭酸水を割ったもの）を飲む習慣が広くあるため、受け入れられやすいと考える。
- 日本酒初心者の一般的ルーマニア人にとっては、抵抗なく飲むことができる味や口触りである。
- 一般的なスパークリングワインや、スプリッツァよりもやわらかく飲みやすい。スパークリング日本酒の方が美味しい。
- 他の日本酒に比べ、アルコールを強く感じないため、初心者にとって飲みやすい。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

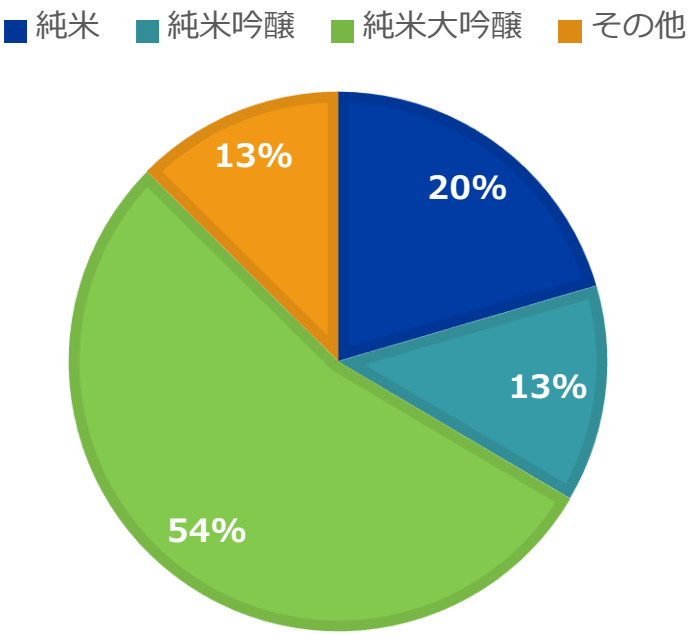
4 | 文化イベントでのヒアリング

- 純米、純米吟醸、純米大吟醸、その他の日本酒の4種類の試飲を実施し、日本酒の種類での嗜好の違いを探った。
- 回答者の86%が30歳以下であるからか、飲みやすい純米大吟醸の人気が高かった。他の試飲ブースや非日系レストランでの調査でも、若者は飲みやすい純米大吟醸やスパークリングを好む傾向がある。

ヒアリング対象 年代別

	男女合計（人）
18 – 24歳	111
25 – 30歳	74
31 – 40歳	20
41 – 50歳	10
51 – 60歳	0
合計	215

試飲した日本酒の中での好み



Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16

IV. 文化イベントでのヒアリング 21

V.　商談イベントでのヒアリング 26

VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

1 商談イベントでのヒアリング

- 2024年9月16日、ルーマニアのアルコール業界関係者（輸入業者、流通業者、小売業者、飲食店等）を対象とした、商談イベントをレストランで実施。
- 42人の業界関係者が出席し、山口県、新潟県、香川県の日本酒の試飲・商談を実施。

1. 概要

- 業界関係者約25人を対象とした着席での試飲イベントを開催し、日本酒専門家による日本酒の概要・製造過程、各日本酒の特徴や料理とのペアリングに関するワークショップを実施。さらに、42人の業界関係者への試飲・商談も実施。

2. 参加者からのコメント

- これまで日本酒を飲んだことはあるが、今回初めて「本物」の日本酒を飲んだことがわかった。日本酒には多くの味の種類があり、食べ物とのペアリングもすし以外にできることが知れてよかった。
- 日本酒の味の種類がこれほど多様だとは知らなかった。レストランで扱う日本酒を増やしたい。
- 非常に勉強になったが、ワインや蒸留酒を飲む文化の壁をどのように超えるかが課題とも感じた。育ってきた食文化が異なるため、一般人が受け入れるには時間がかかると考える。幅広く流通させるためには、日本酒を飲む文化を作り上げる必要がある。

（出所）著者撮影

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

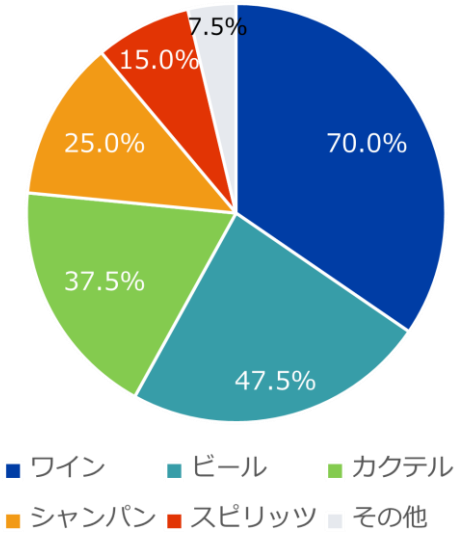
2 | 日本酒関連業者へのヒアリング

インタビューコラム：日本酒専門家

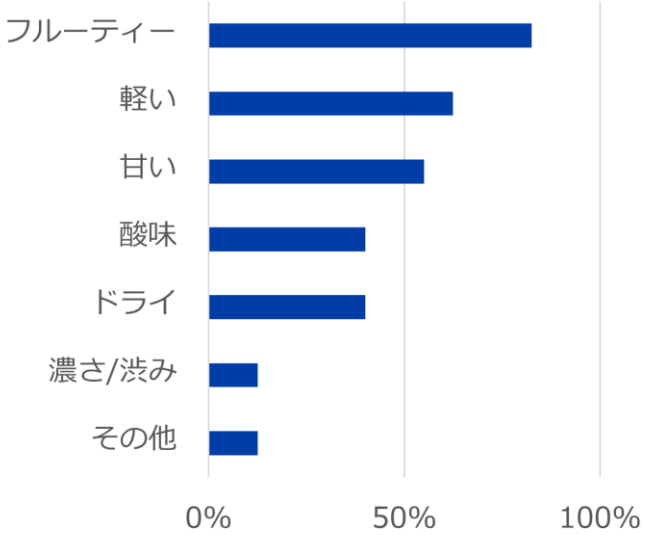
ヒアリング内容に基づく日本酒市場の見解

- 特に20代の男女、若年層がスパークリング日本酒やアルコール度数の低いものを選ぶ傾向が見られ、反対に40 代以上の男女からは同商品に対して、「味わいが物足りない」といった意見があった。
- 旨口の後味が長い日本酒が特に人気で、山廃の日本酒は特に好評を得ていた。一方で一部の参加者からは、アルコール度数の高い蒸留酒の需要の高いルーマニアでは、初段階としてアルコール感の強い、醸造アルコール入りの日本酒、淡麗の味わいのものが受け入れられやすいのではないかとの意見があった。
- 「Sake」という言葉の認知度は高いが、味や製造過程など日本酒についての知識は低く、事実と現地で流通している情報に相違があるという現状がみられた。

普段飲んでいるアルコールの種類



特に美味しかった日本酒の特徴



（出所）日本酒専門家ヒアリングアンケート結果に基づきジェトロ作成

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 日本酒関連業者へのヒアリング

インタビューコラム：日本酒輸入業者ドラゴシュ・マリネスクTokyo Style社長

Tokyo Style概要

- 日本酒、日本食品、包丁、陶器を主に日本から直輸入している輸入業者およびオンライン小売業者である。
- 日本酒は、日本国内の商社経由で香川県の日本酒を輸入しており、主にルーマニア国内の日本食レストランに卸している。

（出所）著者撮影

1. 料理酒から品質の高い日本酒の輸入を開始

- 2020年の当時、欧州で生産されていたクオリティの低い日本酒のみがほとんどのルーマニアの日本食レストランで流通していた。品質の高い本物の日本酒を直接日本から輸入することに転向することに関心をもち、2021年に日本国内の商社から高級な純米大吟醸を試しに輸入。以降は香川県の日本酒に関心をもち、日本酒の違いを学ぶようになった。

2．国際コンテスト受賞の日本酒の輸入

- 国際コンテストで入賞している商品にはブランド力があり、日本酒を試すハードルを下げ、欧米の人からの高い支持が得られる可能性があるとして、2022年より純米酒、にごり酒、山廃等の輸入を開始した。高品質な日本酒を手軽な値段で提供するだけでなく、一般的なルーマニア人が日本酒に触れる機会を増やしていきたく、日本酒のカクテルへの活用をルーマニア国内のバーやレストランに普及させることにも挑戦したい。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

4 日本酒関連業者へのヒアリング

インタビューコラム：日本酒輸入業者ドラゴシュ・マリネスクTokyo Style社長

3. 日本からルーマニアへの日本酒の直輸入の課題

- これまで日本酒を輸入する中で課題になっているのは、税関手続きである。毎年何らかのルールがルーマニア側で変更されるため、その対応に苦慮している。今年の例だと、砂糖に関する税金に関するルールが変更されたため、税関で日本酒が含む砂糖の量の証明を行う必要がでた。
- 日本からの直輸入では、ルーマニア国内の頻繁な税関手続きのルールの変更が対応が困難な点ではあるが、欧州の業者からすでに輸入されている日本酒を購入する方が難しいと個人的には考えている。扱っている商品の品質と値段のバランスの問題、そしてEU内のルール変更への適応コストが問題である。

- 次のスライドでルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制について紹介する。

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

目次

I.　ルーマニアのアルコール飲料市場の動向 4

II. ルーマニアにおける日本酒の市場概況 10

III. 非日系レストランにおけるヒアリング 16

IV. 文化イベントでのヒアリング 21

V.　商談イベントでのヒアリング 26

VI. ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制 31

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

1 ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制

- 日本酒はアルコール度数によって①ビールとワイン以外の発酵飲料（アルコール度数が 15%以下）もしくは②中間製品（アルコール度数が 15%より高く、22%未満の日本酒） に分類され、区分の違いによって物品税（酒税）の金額が決まる。

日本酒の分類

- 日本酒は蒸留酒ではなく、ワイン、ビール、シードルなどと同様の醸造飲料であり、日本酒の HS コードは、一般的に「2206.0059.00（その他醸造酒）」と分類される。
- 現地の法律2015年第227号（財政法）によると、日本酒はアルコール度数によって下記のいずれかに区分される。
  - ビールとワイン以外の発酵飲料（完成品のアルコールが発酵のみに起因し、かつアルコール度数が 15%以下の日本酒）
  - 中間製品（アルコール度数が 15%より高く、22%未満の日本酒）
- 日本酒の輸入の際には、上記二つの区分によって物品税（酒税）の金額が決まり、輸入業者が納税する義務がある。
- 上記区分が不明な場合は、輸入業者から関税局手続部に連絡し、製品詳細ならびに製造方法などを提出の上、その特定を依頼できる。
- 日本酒を輸入するためには、アルコール飲料の輸入に適用されるルーマニアの法律に従う必要があり、ワイン等のその他アルコール飲料の認定輸入業者は、日本酒用に特別に許可は必要ない。

（出所）国家財政行政庁(2024)：https://static.anaf.ro/static/10/Anaf/legislatie/Cod_fiscal_norme_2023.htm

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

2 ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制

- ルーマニアで日本酒輸入を開始するには、日本酒輸入の CAEN（カエン：事業分野原簿番号）である「4634 飲料卸売業務」の事業番号を現地の輸入企業の定款に明記し、認定輸入業者としての認定書を手に入れる必要がある。

アルコール輸入免許等

- ルーマニアで日本酒輸入を開始するには、日本酒輸入の CAEN（カエン：事業分野原簿番号）である「4634 飲料卸売業務」の事業番号を現地の輸入企業の定款に明記しなければならない。
- 定款への記載後、法律2015年第227号（財政法）にしたがって輸入許可を取得する必要がある。
- 定型手順に記載された書類を全て提出し、管轄当局は、これらの書類が全て提出されてから60日以内に認定輸入業者としての認定書を発行する。しかし現地輸入業者によると、定型手順に記載された書類だけでなく、追加で必要書類の提出を要求されるケースも多く、対応に時間がかかることを想定するべきとのこと。
- アルコール飲料の輸入・受渡しが可能な場所は、税関の倉庫、税務（納税用）倉庫、保税区域となっているが、現地輸入業者によると、税関の倉庫を使用すると料金がかなり発生するため、各業者が税務（納税用）倉庫を用意することが一般的となっている。
- 日EU・EPAにより、日本酒への関税は撤廃されている。

（出所）国家財政行政庁(2024)：https://static.anaf.ro/static/10/Anaf/legislatie/Cod_fiscal_norme_2023.htm

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

3 ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制

- 輸入業者は、物品税納税者として管轄当局に登録し、税務基準法第 8 部第 1 章の規定に従って、物品納税の金額を正しく計算し、法律に規定された期日までに物品税納税を届け出、国家予算への納税をすることが義務としてある。

ルーマニアにおける酒税

- ルーマニアの税務基準法第 344 条によると、日本酒を含む物品税対象商品を輸入する業者は「物品納税者」として下記の義務がある。
  - 物品税納税者として管轄当局に登録すること。
  - 税務基準法第 8 部第 1 章の規定に従って、物品納税の金額を正しく計算し、法律 に規定された期日までに物品税納税を届け出、国家予算への納税をすること。税務基準法第 345 条（1）項によると、物品税の期日は、物品税の納税義務が発生した 月の翌月 25 日までになる。ただし、特定期日が明示される場合はその限りではない。
- また、ワイン、その他のアルコール発酵飲料および中間製品に対する物品税は下記数式によってルーマニア通貨（レイ）にて計算する。 ※レポート作成時点の情報

A = K x Q

A= 物品税の金額
K= 税務基準法第 8 部別添 1（第 342 条（2）～（4）項によって更新済）における 2～4 項に掲示された税率。
Q= 物品容量（ヘクトリッター）

（出所）国家財政行政庁(2024)：https://static.anaf.ro/static/10/Anaf/legislatie/Cod_fiscal_norme_2023.htm

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

4 ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制

- 日本酒はアルコール度数と炭酸ガスの有無によって、2024年時点で1ヘクトリッター当たりの酒税は0レイから555.58レイと幅が広い。

ルーマニアにおける酒税

- 日本酒はアルコール度数と炭酸ガスの有無によって以下の項目のいずれかに該当する。
- 現地輸入業者によると、日本酒によるが、酒税がゼロになるものもあるとのこと。ケースバイケースであることが多いため、当局に確認をする必要がある。
- 2024年政府緊急政令第123号、132号によって、2025年からは以下のように税率が変更される予定である。

大カテゴリー	小カテゴリー	1ヘクトリッター当たりの酒税（レイ）2024年時点	1ヘクトリッター当たりの酒税（レイ）2025年予定
ビール、ワイン以外の発酵飲料	非スパークリング	555.58	580.03
	スパークリング	66.34	69.26
	リンゴ・梨のシードル（非スパークリング）	0	0
	リンゴ・梨のシードル（スパークリング）	0	0
中間製品		555.58	580.03

（出所）
財務省(2023)：https://mfinante.gov.ro/documents/35673/216976/tabel1_regimaccize19122023.pdf
財務省(2024)：https://mfinante.gov.ro/static/10/Mfp/accize/tabel1_regimaccize27112024.pdf

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

5 ルーマニアでのアルコール飲料の輸入規制

- 電子申告制度、飲料ボトルのリサイクル関連の規制、砂糖関連の規制が最近変更があったため、輸入手続きにおいて気をつける必要がある。

その他最近の規制変更事項

- **電子申告制度**

2024年6月から、国立輸入システム（SNI）が運用を開始した。輸入にかかわる税関手続きが電子化された。電子化されたことで、事業者と当局との情報のやり取りは電子的に行われるようになり、特定のケースでは税関手続きが自動的に承認されることがある。

- **ボトルのリサイクル関連の規制**

2023年11月30日に、飲料容器のリサイクルのためのデポジット返却制度（DRS）がルーマニアで開始された。輸入されたアルコール飲料も同制度に適応するために、専用のロゴ等が印刷されたラベルを貼る必要が生じている。

- **砂糖に関連する規制**

2024年1月より付加価値税に関しての規制が改正された。その中で問題になる可能性があるのが、砂糖が多く含まれる飲料商品である。100g当たり10g以上の砂糖が含まれる商品は、付加価値税が9%から19%まで上がった。輸入業者によると、税関による輸入物への検査も厳しくなっており、砂糖の含有量を証明する文書の提出を求めるケースもあるとのこと。

（出所）
EY(2024)：https://www.ey.com/ro_ro/insights/tax/2024/anul-revolutiei-serviciilor-vamale-romanesti
ESM(2023)：https://www.esmmagazine.com/packaging-design/romania-launches-new-deposit-return-scheme-to-boost-recycling-255361

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.

レポートに関するお問い合わせ先

日本貿易振興機構（ジェトロ）

ブカレスト事務所

+40-21-310-6801

RUB@jetro.go.jp

24th Italiană Street, ArionGreen Bldg,
3rd floor, 2nd district, 020976,
Bucharest, ROMANIA

■ 免責条項

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。

禁無断転載

Copyright © 2024 JETRO. All rights reserved.